

白石町長  
コラム  
Vol.53

# 「不易流行」

ふえきりゆうこう

くよき伝統を守りながら(不易) 進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

## チャレンジの風が吹いている

御机集落が、鳥取県、江府町、サントリーと連携し、有休農地の再生を図り、生産した農産物等を商品化する「とっとり共生の里事業」に取り組んでから約4年半が経過しました。地道な取り組みの結果、「奥大山御机そば」を十割そばとして商品化することができました。現在、道の駅奥大山や休暇村奥大山で販売されるほか、江府町のふるさと納税の返礼品として取り扱われています。また、旧米沢小学校にあるジビエ解体処理施設「奥大山地美恵」で生産されたイノシシ肉とシカ肉は、地美恵コロッケに加工され、米子市内のスーパードで売り出されることになりました。

さらに、岡山県から移住された方を中心に結成された団体が、旧米原分校をBMXパークとして手作りして整備され、昨年11月には大会を開催。県内外からの多くの愛好

者でにぎわいました。そして、旧米沢小学校では、大阪から鳥取県内に移住された方が、「奥大山の水洗い珈琲」の製造を始められる準備をしておられます。

新型コロナウイルス

感染症で、全国が沈んでいる中、未来に向けた多様なチャレンジの風が、このように江府町内のあちこちで吹いています。明治大学農学部の小田切徳美教授が提唱されている「にぎやかな過疎」。人口は減っているが、いろいろな主体がわいわいガヤガヤしている。そしてそのことによって「人が人を呼ぶ」、「しごとがしごとを創る」という好循環が動き出す。江府町にもいい動きが出てきます。これからも地域内での人材をしっかりと育てていくとともに、チャレンジする人をしっかりと支えていきたいと思えます。



▲江府町のふるさと納税の返礼品となった「奥大山御机そば」

# 「信頼され、期待に応える役場づくり」プロジェクトチーム(※)活動報告

プロジェクトチームでは現在、「クレド」(＝行動指針)の最終編集を行っているところですが、今回は番外編として、「江府町役場新庁舎の新たな使い方」について紹介します。白石町長より役場職員へ「江府町役場新庁舎でどんな使い方ができるのか」とアイデアを募ったところ、30項目以上の案が出ました。

望める」は、ガラス張りの一面からくつろいだ雰囲気で見物を楽しめるスペースとして実現しましたし、その他にもこれから活かせるようなアイデアがたくさんありました。

「広い駐車場を活用したマルシェ」、「多目的室を土日開放」など、これまでにない柔軟なものでした。ひとつでも実行ができるように、今後検討をしていきます。

（※当時の提案書は、各施設の窓口を設置してある提案書または町ホームページで確認ください）。

そして、実際に庁舎が完成した今、当時のアイデアにさらには「こんなことをしてみたいか?」という夢も生まれるのでは：そういったことから、再度、みなさまからの意見をお寄せいただきたいと思います。各施設窓口に設置してある「未来のまちをつくるあなたの声」を活用し、令和3年1月31日(日)までに、専用ポストへ提出してください。みなさまからのたくさんの声をお待ちしています。

思い起こすと、今から3年前。当時「3000人の楽しい町プロジェクトチーム」による「町民ワークショップ」で新庁舎を活かしたまちづくりについて話し合いました。その時の希望の一つ「大山を

これまでの活動はこちら!

これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

※「信頼され、期待に応える役場づくり」プロジェクトチームとは・・・町長をプロジェクトリーダーとし、町長により選任されたメンバーで構成。令和2年8月20日に結成し、「信頼され、期待に応える役場づくり」について課を越えて取り組む。